小学校英語 Just Now

仲間と進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ―真桑小Happy Time

加納志穂　Kano Shiho
（岐阜県本巣市立真桑小学校）

1. はじめに

岐阜県内の小学校の約２割は，文部科学大臣より承認を受けた「教育課程特例校」として，「英語科」を設置しています。本校の場合は，高学年の年35時間の「外国語活動」のほか，低・中学年に年20時間の「英語活動」を設置しています。

本校に在籍するALTは２人おり，HRTはどちらか一方のALTとTTで授業を行うことを基本としています。そして本校にはHappy Roomと呼ばれる外国語活動・英語活動用の特別教室があり，本校のこれまでの財産ともいえる教材や，*Hi, friends!*（文部科学省）のデジタル教材が入っているICT環境が整備されています。児童たちは大変恵まれた環境の下で外国語活動・英語活動を行っています。

本校の研究主題は，「仲間と進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」で，目指す児童の姿は次の通りです。

- ●言語やジェスチャー等を用いて，相手の思いや考えを理解しようとしたり，自分の考えや思いを伝えようとしたりする児童
- ●外国語の音声やリズムなどに慣れ親しんでいる児童
- ●言語の面白さや豊かさに気付いたり，多様なものの見方や考え方があることに気付いたりする児童

2. 指導計画について

高学年は，主に*Hi, friends!*を用いた指導計画で，低・中学年は，真桑小学校独自の指導計画を毎年改善しています。

	慣れ親しみ	コミュニケーション	気付き
高学年	↑	↑	言語を用いて伝えることの大切さが分かる。
			様々な価値観（ものの考え方や見方）があることが分かる。
		意見や考えを求めたり，それらを付けて話したりしようとする。	日本と外国の言語や文化の共通点や相違点に気付いている。
		相手に柔軟に対応しながら，話したり聞いたりしている。	世界には様々な言語があることに気付いている。
中学年		うなずいたり，確認したりしながら聞こうとする。	日本と外国（英語圏）の言語や文化の共通点や相違点に気付いている。
	これまでに慣れ親しんできた語彙や表現を場面に合わせて使っている。	より多くの仲間とやりとりしようとする。	
	単元で慣れ親しむ語彙や表現を場面に合わせて使っている。	自分から進んでやりとりしようとする。	
低学年	単元で慣れ親しむ語彙や表現を使っている。	表情やジェスチャーを手がかりに聞いたり，ジェスチャーを用いるなどして話したりしようとする。	
	音声やリズムに注意して，まねして言っている。	相手の言うことを最後まで聞いたり，自分の言いたいことをはきはきと話したりしようとする。	
	音声やリズムに注意して聞いている。	相手の目を見て，聞いたり話したりしようとする。	

(1) 付けたい力を明確にする

外国語活動の目標にある「慣れ親しみ」「コミュニケーション」「気付き」を三本柱として，各学年部の付けたい力を「付けたい力段階表」にまとめ，これをもとに，単元のねらい・単位時間のねらいを明らかにして指導計画を作成しています。

昨年度は，低学年は「慣れ親しみ」，中学年は「コミュニケーション」，高学年は「気付き」に重点を置いて指導計画を作成しました。低学年は，様々な語彙に慣れ親しめるよう，それまでほとんどの単元構成が４時間でしたが，３時間に変えました。単元数を増やすことにより，より多くの題材と出会い，より多くの語彙に親しむことができました。中学年は，低学年の頃から大切にしてきている「５つのマナー（Good listening, Eye contact, Clear voice,

Smile, Gesture)」に加え「より多くの仲間に」「自分から進んで」「確認しながら」「反応して」など，コミュニケーションにおける付けたい力を具体的にしました。高学年は，「言語や文化への気付き」を生み出せるように，単元の導入時には，日本語と英語の音声やリズムの違いに気付けるような活動を位置付けるようにしました。また，単元を通して，日本や外国の文化の違いに気付けるように活動を工夫しました。

(2) 児童の実態を把握する

児童の実態把握は，「補助簿」と「児童への意識調査（アンケート）」から行っています。

① **補助簿**：児童の振り返りシートの「自己評価」「相互評価」と，活動時の「教師による評価」を，単元で１枚の補助簿に記録します。これにより，「自己評価」と「教師による評価」の差異が見られる児童が明らかになり，次時に，どの児童をどのように指導するのかを考えることができます。

② **児童への意識調査（アンケート）**：英語活動に関するアンケートを実施して，児童の英語活動に対する意識を調査します。活動時の児童の様子に加え，このアンケート結果を指導計画の見直しに反映させています。

(3) 単元構成を工夫する

低学年は，「慣れ親しみ」に重点を置き，各単元３時間構成のため，第３時には簡単なコミュニケーション活動を行っています。

中・高学年は，単元の出口に行うコミュニケーション活動を効果的にするために，第１時には「基礎的活動」を位置付け，第２時には「疑似コミュニケーション活動」を位置付けます。これらを通して慣れ親しんだ語彙や表現を用いて，単元の出口では，伝えたい情報を，自信をもって伝えることができるようにします。児童が単元のゴールの姿を見通して，単元を通してねらいが達成できるように，第１時の導入時に，モデルスキットをALTとHRTで示します。また，高学年においては，デジタル教材にある「モデルスキット」を視聴し，出口のイメージをもちます。

3. 指導と評価について

(1) 活動の場の設定を工夫する

「たっぷり聞く活動→真似して言ってみる活動→使ってみる活動」といったように，段階的に活動を仕組むことで，児童が負担を感じることなく語彙や表現に親しめるようにします。ひとつひとつの活動の特性を理解した上で活動を仕組んだり活動形態を考えたりすることは，なかなか大変なことですが，「この活動で本当にねらいは達成できるのか」といった視点を常にもつようにしています。

(2) 振り返りを工夫する

振り返りシートを用いて振り返りを行うことを基本とし，振り返りシートは，単位時間に１枚か，単元で１枚かを，児童の実態に合わせて選択しています。「慣れ親しみ」の自己満足度を図るために，慣れ親んだと思う語彙や表現のイラストに○を付けます。「コミュニケーション」に関しては，“Today's point（本時大切にしたいこと）”に沿ってできたと思うかを◎○△で自己評価し，仲間のよさについては自由に記述します。「気付き」に関しては，言語や文化について気付いたことを記述します。

振り返りシートを継続して使い，綴じていくことで，児童は自分の伸びを自覚してきています。教師にとっては，個々の児童の自己評価がわかるだけでなく，相互評価により，教師では見取れなかった，多くの児童のよさを情報として得ることができます。そして，指導計画作成や次時の指導に生かすことができると考えます。

4. おわりに

本巣市の小学校には，英語科の免許を保持する教員は少ないため，専門外のHRTでも指導計画を作成して授業を行えるように，英語の職員研修“Staff Happy Time”を，毎月の職員会の後に15分間行っています。ひと月にわずか15分間ですが，職員は大変意欲的に研修に参加し，授業実践に生かしています。グローバル化が叫ばれる今，こういった研修は大変価値あるものと考えます。